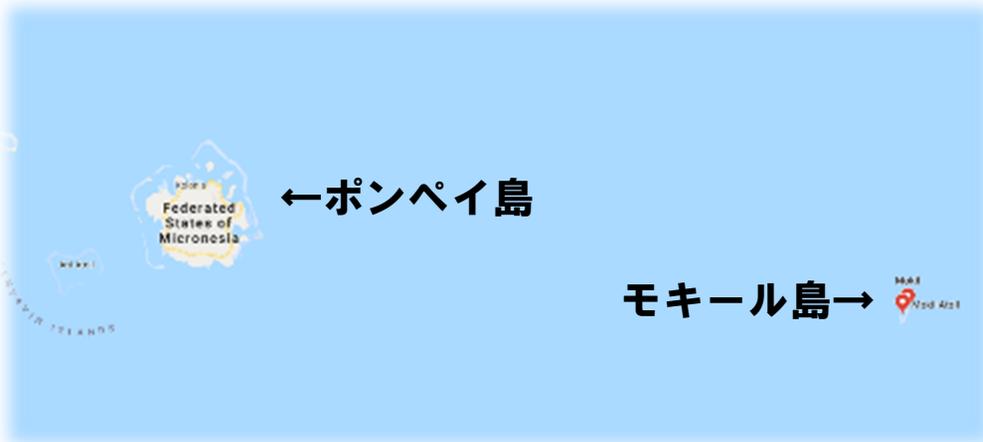


ミクロネシア NEWS

2019年7月16日第11号
JICA 青年海外協力隊
ミクロネシア連邦派遣
小学校教育隊員
磯崎 春美（中野区立江原小学校）

江原小学校のみなさん、カセレーリエ！ヤイロム？（お元気ですか？）もうすぐ夏休みを迎えますね。夏に向けて気温も上がり、プールに入るのが気持ちいい季節ですね。さて、こちらポンペイの学校は夏休み真っ只中です。夏休みの期間を利用して、ミクロネシア国内の島に旅行にに行ってきました。今回は同期隊員のホームステイ先家族の里帰りについていきました。場所はモキールという島で、ポンペイ島の東側に位置しています。移動手段は船かヘリコプター。今回はヘリコプターでモキールへ行きました。今回のニュースではこのモキール島の自然や人々の暮らしについて紹介します。同じ国でも任地のポンペイ島とは違う暮らしをしていました！



↑セスナ飛行機で出発

島の人々の暮らし

○食べ物

モキール島にはスーパーやお店はありません。住人はこの島でとれる果実や野菜、魚を食べて暮らしています。普段は釣りで獲れた魚、パンの実、タロ芋、そしてバナナやココナッツを食べています。また、マングローブガニも生息しているので蟹を食べることもあります。

驚いたのは、ココナッツから自家製のココナッツオイルをつくっていることです。料理に使うこのオイルは島民で協力してつくります。ココナッツの中の白い部分を削り出し、水と混ぜてしばらくココナッツミルクをつくります。そして、ぬるま湯をそそいで半日待つことで油分を自然分離させてオイルを抽出します。



（ココナッツから実を削り出す）

ココナッツオイルは料理のほかにも髪や体の保湿など幅広く使われています。

また、釣りで獲れた魚を使って干物をつくっていました。わたしも干すのを手伝いました。



（ぬるま湯を入れて分離させる）



○生活

生活に使う水は、飲み水を含めて全て雨水を使っています。どの家にも屋根から雨水をためるパイプがあり、タンクがあります。「本当に飲んで大丈夫かな。」と最初は思いましたが、たしかに透き通っていてきれいな水でした。島には車や工場もなく、空気もとてもきれいなので雨水を飲むことができるのです。また、インターネットはつながっていません。電気も安定して共有されてはいません。電気は太陽光発電のみです。ですが、まともに使えるのは診療所と学校のみ。人家にも太陽光パネルが設置されていますが、電気を溜めるバッテリーがきちんと設置されているわけではないので、太陽が出ている日中しか使えません。(夜間は懐中電灯を使っています。)学校は島に一つ、病院はなく、診療所が一つありません。



(雨水タンク)



(島で唯一の学校)



(診療所)



(釣りで獲れた魚)

前村長さん一郎さんとの出会い



島にいると出会う人がみなとても優しく話しかけてくれます。その中でモキール島の前村長の一郎さんとの出会いが心に残りました。83歳の一郎さんは12年間モキールの村長を務めていました。現在はポンペイ島とモキールを行き来しながら生活しています。

一郎さんの話では、昔は日本の漁船がたくさんこの島に休息に来て、モキールの人のおもてなしのお礼に日本の食べ物を島の人に届けてくれたそうです。一郎さんの名前も交流のあった日本人につけてもらったそうです。

島の生活は自然と寄り添った素晴らしものですが、島民は安定した給料や進んだ生活を求めてポンペイ島やハワイ、グアム、またアメリカへと移住してしまいました。今まで100人ほどの島民が移住をしました。残った島民は40人から50人ほどです。(島を歩いていると廃墟がたくさんありました)

とても親切な方でその日の夜は一郎さんのハット(小屋のような場所)で寝かせてもらいました。そこから見る夜空は素晴らしくきれいで、満点の星が輝いていました。肉眼で下の写真と同じ空を見ることができました。

旅の感想

モキールに来て発見や驚きがたくさんありました。ポンペイ島から離れた離島にも日本との深いかわりがあり、日本の名前を持つ方がいたこと。またサンゴが生き生きとして魚も多く住むきれいな海を見ることができたこと。しかし、そのきれいな海の中にもゴミが捨ててあり、環境を守るために知識や教育が必要であることも同時に実感しました。一番心に残ったのは、モキールのあたたかい人たちと出会ったこと。この夏一番の思い出、素晴らしい思い出と景色を心に刻むことができました。

